

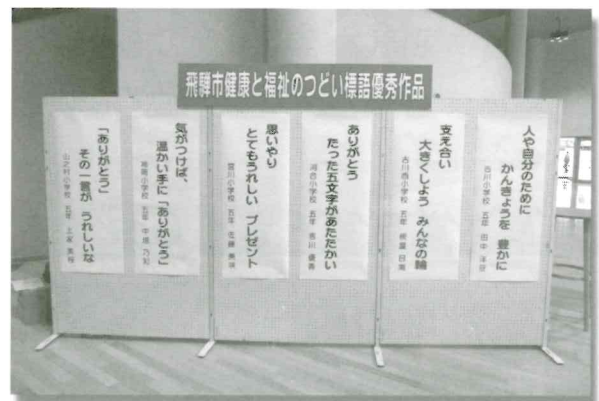
飛騨市社会福祉協議会

福祉協力校だより

平成24年12月18日発行



飛騨市健康と福祉のつどい



福祉標語優秀作品

福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、次世代の担い手である小学校・中学校・高等学校の児童・生徒が、ボランティア活動や身近な福祉活動の中で、社会奉仕や社会連帯の精神を養い、家庭や地域の福祉の心を深めるような教育の実践を行うことを目的として、福祉協力校（市内10校）を指定し、下記のような活動を当協議会と連携を取りながら実施しています。また、当協議会では、福祉協力校へ助成金を交付し、活動の支援を行っています。

具体的な活動は？

1 広報・啓発活動

- 講演会や展示会等の開催
- 各学校の福祉活動の紹介
- 体験作文、学校新聞等の作成や配布
- 福祉意見発表会
- 福祉標語の募集



2 調査・研究活動

- 地域における福祉実態調査



3 体験学習を目的とした実践活動

- 福祉体験活動（手話、点字、車いす体験など）



4 地域一般での訪問・交流体験活動

- 高齢者施設等への訪問、交流活動
- 暑中見舞い・年賀状等の送付
- 給食サービスボランティア活動
- 各種募金活動
- ベルマーク・エコキャップ収集活動

【福祉協力校一覧】

飛騨市立山之村小中学校・飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校
 飛騨市立河合小学校・飛騨市立宮川小学校・飛騨市立神岡小学校
 飛騨市立古川中学校・飛騨市立神岡中学校
 岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校



福祉体験



活動の一環として、夏休みには、一人暮らし高齢者や高齢者世帯への給食サービス、福祉学習の中では、車いす体験、高齢者疑似体験などを実施しています。





11月11日(日)、飛騨市文化交流センターで「飛騨市健康と福祉のつどい」を開催しました。これは、国民健康保険健康世帯の表彰や市内中学生の福祉意見発表・市内小学生の福祉標語の掲示を通して、住民が健康の喜びと、地域福祉の重要性について、関心を深めることを目的として実施しています。

また、今年度は3年に1度の社会福祉協議会表彰を行い、福祉活動に長年ご尽力いただいた民生児童委員及び主任児童委員、民間社会福祉施設等役職員として、長年ご活躍頂いた方を表彰させていただきました。

中学生の福祉意見発表では、飛騨市の将来を担う若者の学校や家庭、将来についての意見や考えに来場者の皆さんは真剣に耳を傾けてみえました。

そして、委員長になり新しい活動をはじめようと思いましたが、なかなか思いつきませんでした。そんな中、第一回の委員会るとき委員の一人が、これまで周りの人のために、募金活動やベルマーク集めなどの活動をしてきました。昨年河合中や宮川中と統合した時



みんなに支えられて

古川中学校三年
坪田 成未



私は前からボランティア活動に興味があつて福祉委員会に入っていました。委員長の学校全体のことを考え委員のみんなを動かしたいと思つたように思いました。

これまで福祉委員会では伝統的に毎年同じ活動をしていました。私はもつとたくさんの方が参加できる活動で、古川中学校を思いやりいっぱい学校にしたいと思ひ立候補しました。

のスローガン「笑顔いっぱい古川中学校」がまだ達成していないので、古川中学校の生徒がみんな笑顔になれるような温かい学校づくりの活動をしたたいと思ひを出してくれました。また、別の委員は、統合して一年たつたけれど、みんながほんとうに仲の良い古川中学校になつていてるだろうか。仲のいい子だけで集まつているようなことはないだろうかと問題提起をしてくれ

ました。少し前、テレビや新聞で「いじめ自殺」のニュースを報道していました。古川中学校にはひどいいじめはありません。しかし、ときどき悪口を言つたり、相手に不快な思いをさせるような行動をとつたりしてしまう生徒もいます。温かい学校にするには、まず、学年内が仲良くなるこゝろが大切だと思ひ学年レクを計画しました。

また、そのころ、ウォームエピソードキャンペーンを行いました。全校から心が温かくなつたエピソードを集めて広めていきました。近所の方と、クラスの仲間と、修学旅行の中でなど、いろいろな場面であつた皆さんの支えられてい

などと書いてくれて、やつてよかつたなあと思ひました。このレクレーションを通して雰囲気も良くなつたというクラスもいくつかありました。みんなで関わつていくことで良い古川中学校が作れると思ひました。

また、一学期の終わりに、「暑中見舞いボランティア」を募集しました。三五〇人もの一人暮らしのお年寄りに暑中見舞いを出そうという活動です。そんなに協力してくれる人がいるかとても不安でしたが、私たちの呼びかけにたくさんの方が協力してくれました。みんな文章をすくく丁寧に書いてくれて、絵もとてもきれいに描いてくれました。とてもうれしかったです。

「計画してくれてありがとう。」

また、学年レクでは、クラスをつながりをもつと強めるために、ドッジボールや手つなぎ鬼という簡単なレクレーションをするようになりました。みんながとても楽しんで参加してくれてうれしくなりました。そのあと、ウォームエピソードに「楽しかった。」「友達が応援してくれたり、声をかけたかりしてくれてうれしかった。」

最初は、活動しながらも私は委員長として不安がいつぱいでした。しかし、どの学年の委員も委員会を決めたことを責任を持つてやつてくれました。また、三年生は、いろいろ意見を出してくれたり励ましてくれたりして、私はみんなに支えられているなあと感じることができました。おかげで、安心して委員長の仕事を進めることができました。

みんなを動かしてよりよい学校にしたいと思って立候補した委員長の仕事でしたが、私が、学校のみんなや、委員のみんなに支えられていることや、助けられていることを強く感じました。福祉という人にしてあげることばかり考えていましたが、本当はみんなが、自分の出来ることを一生懸命やって、支え合ってくることなんだろうなあと思わず考えが変わってきました。

古川中学校はまだ、みんなが仲が良くて笑顔いっぱい学校にはなっていない。しかし、お互いに支え合ったり、助け合ったりしようと思っている人がたくさんいます。そして実際に周りに支えてくれる人や助けてくれる人もたくさんいます。

私は古川中学校の生徒でよかったと思いました。このみんなの素晴らしい姿を、私のまわりから、クラスへそして学年へ全校へと広げていきたいと思えました。

こうした家事の音をたてたり見せたりしている。」と言ってみえました。お年寄りの方が過ごしやすい空間を作るために手間をかけてみえてすごいなあと思いました。

お昼には、「食事の介護を試みる？」と言われました。実際にやってみると、うまく口の中に食べ物を入れられなかつたり、ペースが速すぎて苦しい思いをさせてしまったりと上手にできず申し訳ないなあと思いました。施設の方が「自分で食べられるようにするけれど自分で食べる気がなかつたり時間がたつても進まないようなときは介助してください。」と言われ、それまで、私は福祉ってなんでもしてあげることだと思っていました。きちんとその方のできることを見守り少し手助けをすることなんだと分かりました。とても難しいと思いましたが、職員の方は自然に手を貸していてすごいなあと思いました。

お年寄りとお話することも私は得意だと思っていたので、簡単に考えていました。でも入所者の方の中には目の見えにくい方や、耳の聞こえにく



職場体験をおして

古川中学校二年

蒲 菜々子

古川中学校では、二年生が秋に職場体験に行きます。夏休み前に行き先を決めました。私は希望していた福祉施設に行くことになりました。私は、人と関わるのが好きで、将来人を助ける仕事がしたいと思っていたのでこの職場に決まったときはうれしかったです。

体験一日目、施設でまず最初に任せられたのは、食器洗い

でした。他にも部屋のそうじや、洗濯物干しなどをしました。考えてみるとほとんど家で手伝いをしてるようなことばかりでした。大きな施設なのに時間をかけて職員の方がそういう仕事をされるのは不思議な感じがしました。でも、後で、職員の方が「ここでは施設に入っているという感じではなく家にいるという雰囲気でも過ごしてもらうために、

い方など、様々な障がいを持つて見える方がたくさんいて、いざ話しかけてみると全然伝わらなくて、悲しくなりました。でも職員の方はそれぞれのお年寄りの方にあつた関わり方をしてみえて笑顔で楽しそうにコミュニケーションしてみえる姿がとても印象に残りました。

二日目には、入所者の方と一緒に洗濯物干しをしているときに、「ありがとう」と言ってくれたことがとてもうれしかったです。一言がこんなにうれしいと初めて気づきました。

私は、それまで福祉という仕事はただ、お年寄りの方とコミュニケーションする仕事だと思っていました。でも、二日間の体験を終えて、福祉の仕事ってこんなに大変だということがよくわかりました。そして、相手の方をしっかりと見てその人の気持ちになつて対応したり、少しの工夫でお年寄りの方が過ごしやすい空間を作るこの大切さを感じました。だからこそ、相





祖母のために自分ができること

神岡中学校三年

石田 琴美

私がすんでいる飛騨市神岡町。現在の神岡町は、高齢者にとつて住みやすい町だと思いますか。私は、決して住みやすいとはいえないと思います。

神岡は町の中に坂や階段が多く、高齢者が通行するのはとても大変です。それに病院や商店もあまり多くありません。最近ではインターネットショッピングを利用すれば、家においても商品が届くので、わ



ざわざ移動しなくても簡単に買うことができます。しかし、高齢者の方がインターネットを楽に利用できるかというところでもありません。また、老人介護施設のデイサービスを利用すれば、家まで迎えに来てくれたり、お風呂に自分で入れない方を風呂に入れてくれたりします。高齢者のお友達ができて、話をできるのもいいところです。でも、そういった施設が、神岡に十分あるとはいえません。

私には、七十八歳になる祖母がいます。祖母は、同じ神岡町ですが、今一人で暮らしています。一昨年祖父が亡くなり、一人暮らしになったのです。祖母は腰と首の手術をしましたが、なかなかよくなるはず今は車いすで生活をしています。そのため週に二回デイサー

ビスに行き、お風呂に入れてもらっています。またリハビリをするために病院にも通っています。しかし車いすでの生活は困難も多く、鍵の開け閉めや掃除は毎日母が祖母の家に行つてやっています。車いすの祖母のことを考えると、町の中は坂や階段が多く、とても不便だと思います。

今年の夏休みのある日、母に「ばあちゃんのリハビリの様子、見てみるといいよ。」と言われました。そこで私は、車いすの不便さを知るために祖母のリハビリについて行ってみました。病院の近くの坂で祖母に、「坂は力があるでね。」といわれ、「平気平気。」と返事をしていた私ですが、実際車いすを押すのにとっても苦勞しました。すぐ力がいるし、

自分が思っていたよりも重く感じて、祖母一人で登るとなるととても無理だと思いました。もう一つ私が苦勞したのは、狭い道での曲がり角を通るときです。曲がるときに注意しないと角にぶつかったり、人にぶつかったりして、けがをしてしまう可能性もあります。また、小さな段差でも引っかけ

度もありました。

この体験をしてみても、今までは気にしていなかったけれど、高齢者や障害のある方は目的地まで移動するのにとても苦勞をしているということがわかりました。坂道や階段の通行は、車いすの人はかりでなく、足腰の弱くなったお年寄りの方にもとても大変です。また、狭い道では車が来たとき、すぐに気づかない時もあるので、車を運転する人も注意しなければなりません。

このようなことから、神岡の町は高齢者にとつて不親切であること、車いすで移動するときの大変さ、不便さがあるということを知りました。そんな中でも、私たちにでき

ることがあります。それは、困っているお年寄りの方がいたら、「大丈夫ですか。」「何か手伝いましょうか。」などと声をかけてあげること。また誰でも挨拶をされたらうれしいと思うので、自分から挨拶をすることです。そして私は、できるだけ祖母の家に行つて、祖母が寂しい思いをしないようにしてあげたいし、何か自分に手伝えることがあつたら手伝いをして少しでも祖母と母が楽になるようにしたいです。

そして、神岡町が高齢者の方にとつて少しでも暮らしやすくなるように、みんなで助け合つて、より安心して生活できるような町になつたらいいなと思います。



僕の職業観

山之村中学校三年

石橋 匠

「あんた！このままでど、どこにも就職できなくなるよ？」中三になつても、マンガを読んで勉強をしていなかった僕に、母がそう叱りつけました。

中学生になつてから同じよ

うなことを言われてきた僕は、(大げさだなあ。就職なんてしようと思えばできるのに)と受け流していました。しかし、僕の住む飛騨市にどんな就職先があるのか知らないのに、



本当に就職できるのだろうかという不安もありました。

そんな時、学校の図書館で『フリーター漂流』という本を見つけた。気になり、読んでみました。

「フリーター最高ですよ。金が欲しい時にバイトして、遊びたい時に休む。」僕はこの文章を読んで、フリーターもいいかもしれないと考えました。それまでなんとなくフリーターにはなりたくないと思っていましたが、就職できなくてもアルバイトならたくさんあると分かりました。

しかし、「今のバイト…。」いつまでできるかな。五年後十年後になったら雇ってもらえなくなることは分かっている。

この言葉で、僕の考えは、何て甘かったのだろうと気づきました。確かに、若いうちはたくさんアルバイトがあり、安定はしなくても給料がもらえます。でも、アルバイトというものは所詮その場しのぎの仕事であり、年齢制限もあります。給料が高くてボーナスはなく、安定した生活

が難しいのです。アルバイトは、今を生きる手段であって、自分の夢は叶えてくれないのです。

今年の九月、山之村中学校で、東京研修がありました。この研修は、自分たちの環境と大きく違う日本の首都東京での体験や見学を通して自分の視野を広げたり、個人研修を通して、自分の進路につなげたりするねらいで行われました。そこで僕はパソコンに興味があるので、最先端技術を学ぶために東芝科学館へ見学に行きました。ここでは、静電気の不思議を体験したり、3Dの原理である、『レンヂキョウシステム』を学んだりすることができました。さらに、一番驚いたことは、このシス

テムは、原理が簡単で画期的なものだということと、その開発メンバーに、主婦の方がいたということです。僕はというと、3Dなどの技術開発は科学者の方だけが行うものだ、そして、難しい化学式などを並べて、私たちには理解できない原理であると思っていました。しかし、新しいシステムでも、その発端は、東京だからではなく、身近な生活の中にあり、誰でも気付けることだと学びました。

「フリーターにはなるな！」とよく大人は言います。それなのに、企業は正社員を減らし、賃金が少なくて済むフリーターを必要としながら、会社を発展させようとしているのです。こんなことは矛盾しているし、絶対おかしいことだと思います。

都会に出たからといって、都会でフリーターとして生活するしかない人だっているはず。フリーターとして生活することは、毎日の食事に困り、将来への不安を常に感じなくてはならないと考えたと、僕は、将来を見据えて、就職して働きたいです。

もちろん、技術を身につけて、個人で働いてみえる方はすば

らしいと思います。自分の夢に向かつて頑張っていれば、安定した生活ではなくても、やりがいがあると思います。

僕の住んでいる山之村にも、県外からたくさんの方々が移住しています。そして、牧場などで、一生懸命働いてみえる姿をよく見かけます。この地域に、夢を追いかけて頑張っている方がいることを、僕は誇りに思っています。

僕は、自分が育ってきたこの飛騨市が大好きです。だから、将来大人になったら、飛騨市でコンピューター

関係の仕事につき、飛騨市の発展のため、市民の皆さんのために働きたいと考えています。しかし、大手の会社に行こうと思うと、この辺りに工場や研究所はないため、飛騨市から離れなくてはなりません。

でも、東京研修等の経験、体験を通して、都

会ではなく、この飛騨市だからこそできることがあるのではないかと可能性を感じています。僕は、今住んでいるこの飛騨市に、若者が夢を追いかけて働ける企業をたくさん集めて欲しいと期待しています。そうすることで、飛騨市全体が活気に溢れ、みんなが希望に満ちた生活を送れると思います。いつか、僕たち若者の力で更に飛騨市を発展させ、皆が幸せに暮らしていける町作りに貢献していきたいです。



福祉標語優秀作品

人や自分のために

かんきょうを 豊かに

古川小学校五年 田中洋亘

支え合い

大きくしよう みんなの輪

古川西小学校五年 板屋日南

ありがとう

たった五文字があたたかい

河合小学校五年 吉川優香

思いやり

とてもうれしい プレゼント

宮川小学校五年 佐藤美咲

気がつけば、

温かい手に「ありがとう」

神岡小学校五年 中垣乃彩

「ありがとう」

その一言が うれしいな

山之内小学校五年 上家美桜



出前講座



車いす体験や高齢者疑似体験、障がいに関する疑似体験、福祉学習に必要なものを貸し出したり、職員が出向いてアドバイスします。授業やクラブ活動、先生や企業、地域での学習会等、お気軽にご相談ください。



高齢者疑似体験

高齢者疑似体験セットを身に付け、年齢を重ねると体の状態がどう変わるのかを体験することができます。高齢者の気持ちを考え、介助者の役割を学びます。



車いす体験

車いすの種類や機能、操作方法を説明します。車いすに乗っている人、車いすを押す人双方の気持ちを理解し、相手を思いやる気持ちの大切さを学びます。

視覚及び聴覚障がい体験

特殊眼鏡や耳栓をつけることで、障がいのある方の生活での不便さを発見し、障がいの理解促進を目指します。

*その他、飛騨市社会福祉協議会ではさまざまな出前講座を準備しております。

お問合せ

飛騨市社会福祉協議会

TEL 0577-73-3214